

2019年9月20日

令和元年度9月 学位授与式学長告辞

九州工業大学長 尾家祐二

本日、ここに令和元年度の学位授与式を挙行できますことは、本学にとりまして大きな喜びであります。栄えある門出を迎えられました皆さんに、まずもってお祝い申し上げます。また、この日まで修了生を物心両面から支えられました保護者、御家族の皆様のお喜びはひとしおと、衷心よりお祝い申し上げます。

本学は、今年創立110周年を迎えることができました。このことは、国、自治体、企業、国内外の大学など多くの組織と、地域のみならず、6万人以上の卒業生の皆さん、今、在籍している学生諸君そして本学教職員を含めた多くの方々のご理解、ご支援、ご協力のおかげであると深く感謝致しております。

110年の時は長く、この間に、世界的にも様々なことが起きました。日本国内も大きく変化し続けました。例えば、日本では110年前の1909年から我が国の製造業の実態を把握するための工業統計調査を開始しています。その当時の生産額はおよそ8億円で、その約半分は製糸、染色などの産業によるものでした。そして、100回目の調査となった2008年の調査結果では、出荷額は約40万倍以上の338兆円に達し、そのトップは車両などの輸送機械、次いで電気機械、一般機械となっており、それらの合計が全体の46%を占めています。著しい変化です。また、国内総生産に占める製造業の割合は近年減少し、サービス業が増加し続けています。

<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/kougyo/wagakuni/2011.html>

このような変化を、110年前に想像することはとても困難であったと思いますし、これから100年先の未来を予測することも同様に困難です。

社会変革と技術の関係については、ユヴァル・ノア・ハラリが、その著「ホモ・デウス」（河出書房新書）の最後の章で次のように述べています。「テクノロジーは決定論的で」はなく、「同一のテクノロジーが全く異なる種類の社会を作り出すこともありうる」、と。そして、私たちの思考や行動が今日の社会制度等に大きく影響を受けているため、それらの制約を緩和し、行動を変化させ、未来に向けて豊かな想像力を持つことが大切であることも指摘しています。

一方で、大変残念なことに、今もなお、世界中の国・地域間で様々な軋轢が生じています。国家間の問題解決は容易に進みません。しかし、そのような情勢の中、この九州工業大学のキャンパスで様々な国の

留学生諸君が集まり、共に学び、そして協力して生活しています。多様性のある組織における学びは、各人の創造力を豊かにし、新たな考えを持ち、そして新たな行動を起こす機会を与えてくれていると思います。それは、自分自身の新たな発見であり、新たな自分を創造することにもなります。

20世紀前半に活躍したフランスの哲学者であるアランは数々の有名な言葉を残しています。その中で、よく引用される言葉として、「悲観主義は気分に属し、楽観主義は意志に属する。」(アラン著「幸福論」(石川湧訳)角川文庫)という言葉があります。そして「あらゆる幸福は、意志と自制とでできている」とも述べています。感情はとても大切ですが、それに流されて悲観的になるようなことがあれば、意志をもって、幸福に向かっていきましょう。「幸福論」では、次のようにも述べています。「社会というものは、天気や風の加減で居心地がよくなったり悪くなったりする木陰みたいなものではない。その反対で、魔法使いが雨を降らしたり、お天気にしたりする奇跡の場所である」。

皆さんには、是非、豊かな想像力を持ち、ここで学んだ専門的な知識やスキルを活かして、希望に満ちた未来構築に貢献してほしいと思います。

最後になりますが、皆さんが、九州工業大学における多くの良き出会いを財産として、今後活躍されることを祈念し、皆さんの栄えある門出を心から祝福申し上げ、告辞と致します。本日は、誠におめでとうございます。